

文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高める小学校国語科学習指導の工夫 — 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れて —

府中市立南小学校 西谷 由季子

研究の要約

本研究は、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、第5学年及び第6学年の文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を、文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめる力とし、この力を高めるためには、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読むことが有効であると考えた。そこで、まず、研究授業で扱う文章の特徴に応じて読む視点を決めた。その後、第5学年を対象とする文学的な文章の学習において、先に決めた視点をもって同じ作者の作品を比べながら読む活動を取り入れた。その結果、文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめる力に高まりが見られた。このことから、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れることは、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であるといえる。

キーワード：自分の考えをまとめる力 視点

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年、以下「指導要領」とする。）の国語における第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項に、「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」とある。小学校学習指導要領解説国語編（平成20年、以下「解説」とする。）では、この指導事項について、「本や文章を読んで、自分の考えをまとめることを示している。」¹⁾と述べられている。

平成22年度全国学力・学習状況調査の、先に述べた指導事項に係る設問において、抽出対象校の平均正答率は66.6%であった。この結果から、物語全体の内容や構成の効果をとらえて自分の考えをまとめることに課題があることが明らかになった。「平成22年度全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」では、改善に当たって、与えられた文章の内容を詳細に読み取らせるだけでなく、読んだ文章の様々な特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることができるよう指導することを求めている¹⁾。

そこで、本研究において、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れる。これによって、読んだ作品の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることができるようになり、自分の考えをまとめる力は高まると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力

(1) 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項の新設

今回の学習指導要領の改訂では、全学年を通して「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」が新設されている。

PISA調査や全国学力・学習状況調査など国内外の調査結果から、文章に書かれた情報から推論・比較して内容を理解すること、読んだ文章の内容と自分の知識や経験とを関係付けて自分の考えを述べること、読んだ文章の構造・形式など表現の仕方について評価することなどに課題があることが明らかになった。

学習指導要領の改訂時に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官であった井上一郎（2008）は、「読むことの領域の学習過程において、『自分の考えの形成及び交流』を位置付けたのも、このようなことへの改善となるように企図してのことであった。」²⁾と述べている。

これらのことから、今回の改訂では、本や文章を読んで、自分が思ったり考えたりしたことをまとめる指導が重視されていると考える。

(2) 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力とは

文学的な文章を読む対象とする場合の、文章を読んで自分の考えをまとめる力を、国立教育政策研究所の指導事例や全国学力・学習状況調査の正答例を参考に設定する。

まず、第1学年及び第2学年において、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめている児童の学習の状況を明らかにする。

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校国語）」には、自分の考えの形成及び交流に関する指導事項をねらいとする、第2学年の指導事例が紹介されている。この事例において、「おおむね満足できる」状況と判断された記述例と「十分満足できる」状況と判断された記述例を表1に示す。なお、ここで扱われている教材は、アーノルド・ローベル作『ふたりはともだち』所収の「おてがみ」他、同シリーズ作品である。

表1 第2学年「おおむね満足できる」状況と判断された記述例と「十分満足できる」状況と判断された記述例³⁾

「おおむね満足できる」状況と判断された記述例	「かえるくん」が「がまくん」のために手紙を書いてあげて、二人で幸せな気持ちで待っているところがとてもいい。ほかのお話にも「おてがみ」と同じで、「かえるくん」が「がまくん」のために優しくしてあげているところがたくさんある。
「十分満足できる」状況と判断された記述例	お話の最初のところが好き。「おてがみ」のお話の最初でかえるくんががまくんに会いに来たのは、シリーズの前のお話「すいせい」でがまくんを怒らせてしまったので、心配になって様子を見に来たのかもしれない。

記述例から、第1学年及び第2学年において文学的な文章を読んで自分の考えをまとめている児童の学習の状況とは、読んだ文章の中で好きな場面や内容を取り上げ、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめている状況と考える。

次に、第5学年及び第6学年において、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめている児童の学習の状況を明らかにする。

第6学年を対象に実施された平成22年度全国学力・学習状況調査の小学校国語では、物語を読んで思ったり考えたりしたことをまとめて書く設問が出題された。この設問の正答例を表2に示す。

表2 物語を読んで思ったり考えたりしたことをまとめて書く設問の正答例⁴⁾

正答例1	なんとかしてコイノボリをつり上げようとする二人の宇宙人の様子を想像し、思わず笑いたくなりました。なぜなら、コイノボリを大きなさかなだと思いこんでいたからです。
正答例2	ケンちゃんは、コイノボリをつろうとしたのがだれだったのかを、その後どのように考えたのか知りたくなりました。わたしだったら、その事実をはっきりさせたいからです。
正答例3	大ものをつりあげたいという宇宙人たちの気持ちがよく伝わってきました。「まつか」、「ウンウン」、「ふうふう」などの言葉が、その気持ちをよく表しているからです。
正答例4	コイノボリがあちこちで泳いでいる様子を書いて話を終えたところが、上手だと思います。理由は、人物のその後の行動や話の続きなどを読者が想像する効果があるからです。

正答例1と正答例2は、読んだ文章の内容面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。正答例3と正答例4は、読んだ文章の表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。正答例から、第5学年及び第6学年において文学的な文章を読んで自分の考えをまとめている児童の学習の状況とは、読んだ文章の内容面や表現面の特徴をとらえ、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめている状況と考える。

以上のことから、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめている児童の学習の状況を、低学年では、読んだ文章の中の場面や内容について思ったり考えたりしたことをまとめている状況とし、高学年では、読んだ文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている状況とする。

本研究では、第5学年を対象とすることから、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を、読んだ文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることができる力として、研究を進める。

2 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動

(1) 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動の有効性

「平成22年度全国学力・学習状況調査解説資料小学校国語」（平成22年、以下「解説資料」とする。）では、物語を読んで思ったり考えたりしたことをま

とめさせる際に、「今までの読書経験や体験などに関連付け、感じたことや考えたことなどをまとめながら読むことができるように指導することが大切である。」⁵⁾と述べられている。

水戸部修治（2010）は、同じ作者の複数作品を比較することで、「個々の作品のもつ特徴により気付きやすくなる」⁶⁾と述べている。さらに、視点をもって読ませれば、とらえた作品の特徴について、「思考を活発に働かせる契機となる。どこがどう違うのか、なぜ違うのか、自分にはどちらがしっくりくるかといったことを考える学習活動を展開させることが可能になるのである。」⁷⁾と述べている。

これらのことから、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れることで、読んだ作品の特徴をとらえ、それらについて思ったり考えたりすることができるようになることを考える。よって、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読むことは、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であると考えられる。

(2) 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動について

現在の学習指導要領が告示された平成20年の前後から、同じ作者の作品を複数読ませて自分の考えをまとめさせる授業実践が報告されるようになった。これらの実践の多くは、あらかじめ読む視点が示されていないため、個々の児童が、自分の思うままに同じ作者の作品を読んで思ったり考えたりしたことをまとめるというものである。第5学年及び第6学年においては、作品の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめる力を身に付けることが求められているが、これらの授業実践では、読む視点が児童に任されていることから、先に述べた力が確実に身に付くようになるとは考えにくい。

「解説資料」では、複数の作品を読む際、中心となる登場人物とその他の登場人物との関係、物語の構成や展開などの読む視点をもたせることが重要であると述べられている⁽²⁾。

「指導要領」の国語や「解説」から、第5学年及び第6学年において文学的な文章を読む視点を取り出し、表3に示す。

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】」によると、個々の文章には、それぞれ伝えたい内容や描写などの特徴があり、それらの特徴に応じて読む視点を決める必要があると述べられている⁽³⁾。

表3 第5学年及び第6学年において文学的な文章を読む視点

内容面	表現面
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像（登場人物の考え方や生き方を含む） ・登場人物の相互関係 ・登場人物の心情 ・作者の意図やメッセージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成や展開 ・場面の描写 ・情景の描写 ・人物の描写 ・心情の描写

これらのことから、本研究では、研究授業で扱う作者が書いている文章の特徴に応じて、表3から読む視点を決め、その視点をもって同じ作者の作品を比べながら読ませることとする。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

「読むこと」の学習において、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れれば、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表4に示す。

表4 検証の視点と方法

検証の視点	方法
○ 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力が高まったか。 ・読んだ作品の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることができたか。	推薦文 事前・事後 アンケート
○ 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であったか。	推薦文 事後アンケート

(1) 推薦文

文学的な文章を読んで思ったり考えたりしたことを推薦文として書かせる。同じ作者の作品を比べながら読む前に書いた「大造じいさんとガン」の推薦文と同じ作者の作品を比べながら読んだ後に書いた友達に推薦したい作品の推薦文とを比較し、分析することにより、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力の実態を把握する。

(2) 事前アンケート・事後アンケート

アンケートでは、4段階評定尺度法を用いて、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめることに関する児童の意識を把握する。なお、事後アンケートでは、事前アンケートの内容に加え、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動の有効性に関する児童の意識を把握するアンケートを行う。また、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を行った感想を自由に記述させる。

IV 研究授業

1 研究授業の内容

- 期 間 平成24年12月14日～平成25年1月8日
- 対 象 所属校第5学年（1学級31人）
- 単元名 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめるー友達に椋鳩十の作品をすいせんしようー
教材：「大造じいさんとガン」（『国語五 銀河』光村図書 平成22年）他、椋鳩十の作品
- 目 標
読んだ文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることができる。
- 単元を貫く言語活動
本単元では、「C読むこと」の言語活動例「エ本を読んで推薦の文章を書くこと。」を具体化した、椋鳩十の作品の中から友達に推薦したい作品を選び、推薦文を書くという言語活動を、単元を貫く言語活動として設定する。推薦文は、作品の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめるものとする。

2 指導計画（全7時間）

次	時	主な学習活動
一	1	・「椋鳩十の作品を友達にすいせんしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「大造じいさんとガン」を通読し、推薦文を書く。
	2	・第1、2場面の大造じいさんの行動や会話、情景を基に、大造じいさんの残雪に対する気持ちを想像する。
二	3	・第3、4場面の大造じいさんの行動や会話、情景を基に、大造じいさんの残雪に対する気持ちを想像する。
	4	・「大造じいさんとガン」以外の椋鳩十の作品を視点をもって比べながら読む。

	5・6	・椋鳩十の作品について交流する。 ・椋鳩十の作品を読んだ経験と関連付けながら、第一次で書いた「大造じいさんとガン」の推薦文を見直し、修正する。
三	7	・椋鳩十の作品の中から友達に推薦したい作品を選び、推薦文を書く。

3 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読ませるための手立て

- 椋鳩十の作品をできるだけ多く読むことができるよう、教材文と並行して椋鳩十の作品を読ませたり、第二次第4時と第二次第5時の間に冬季休業日を入れた単元を計画したりする。
- 椋鳩十の作品を読む際、教師が提示した読む視点に基づいて読んだことをメモできるよう、ワークシートを用意する。
- 「大造じいさんとガン」を含む椋鳩十の作品に共通する内容面や表現面の特徴には、表5に示した2点があると考える。

表5 椋鳩十の作品に共通する内容面と表現面の特徴

内容面の特徴	物語に登場している鳥や動物に対する、中心人物の見方が大きく変容している。
表現面の特徴	物語に登場している鳥や動物に対する、中心人物の気持ちが情景に表れている。

これらの特徴に応じて椋鳩十の作品を比べながら読む際の視点を、表6に示した2点として、児童に提示する。この2点は、表3に示した読む視点から選んだものである。

表6 椋鳩十の作品を比べながら読む際の視点

内容面	登場人物の人物像 (物語に登場している鳥や動物に対する中心人物の見方は、どのように変わったか。)
表現面	情景の描写 (物語に登場している鳥や動物に対する中心人物の気持ちは、どのような情景に表れているか。)

また、椋鳩十の作品のうち、表5に示した特徴が顕著に表れている4作品を、次ページ表7に示す。この4作品については、児童に読んでほしい作品として、第一次で紹介する。
本単元の学習において、児童は、表6に示した視点をもって、表7に示した4作品を含む、椋鳩十の多くの作品を読むことになる。

表7 児童に読んでほしい棕鳩十の作品

作品の題名	内容面の特徴	表現面の特徴
金色の川	狩人は、物語の前半部分において、カワウソをただの獲物としか見ていなかったが、親カワウソが子カワウソを命がけで守る姿から、自分と同等あるいはそれ以上の存在と認めるようになる作品である。	<ul style="list-style-type: none"> ・その淵は、カワウソ親子のとびこんだあとを中心にして、しずかに、金の水の輪をえがいていました。 ・雪におおわれた崖も谷間も、朝の光をはねかえして、お話の中の金の谷のように、目もくらむほど、きらきらとかがやきわたるのです。
片耳の大シカ	狩人は、物語の前半部分において、片耳の大シカをただの獲物としか見ていなかったが、片耳の大シカが敵も味方も関係なく自分を助けてくれたことから、自分と同等あるいはそれ以上の存在と認めるようになる作品である。	<ul style="list-style-type: none"> ・その新しい光をせなかいっぱいにあびて、片耳の大シカは、むれをひきいて谷底におりて、やがてスギ林の中に、すがたをけしてしまいました。
金色の足あと	正太郎とその両親は、物語の前半部分において、キツネをたかが獣としか見ていなかったが、親ギツネが子ギツネや正太郎を助けようとした姿から、キツネも自分たち人間と同じような気持ちをもった存在であることに気付く作品である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどそのとき、まばゆい朝日に、キツネどもの足あとは、金色にかがやいて、深い林のおくにつづいていくのでありました。
山のえらぶつ	狩人は、物語の前半部分において、「がけくずれ」とよんでいるシカをただの獲物としか見ていなかったが、「がけくずれ」が命がけで自分の妻を守っていたと知って、自分と同等あるいはそれ以上の存在と認めるようになる作品である。	<ul style="list-style-type: none"> ・そのめすジカは、銃声におどろいたためか、あつというまに、「がけくずれ」のあとを追って、せんじんの谷底にひらりととびこんで、つややかな毛なみに朝日をうけて、金のかたまりとなって、まっさかさまにおちていった。

V 研究授業の分析と考察

1 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力が高まったか

(1) 児童の書いた推薦文の記述から

文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を検証する際の判断基準を表8に示す。

表8 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を検証する際の判断基準

自分の考えをまとめることができる	A	読んだ文章の内容面と表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。
	B1	読んだ文章の内容面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。
	B2	読んだ文章の表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。
自分の考えをまとめることができない	C1	読んだ文章の内容面や表現面の特徴をとらえているが、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめていない。
	C2	読んだ文章の内容面や表現面の特徴をとらえていないし、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめていない。

棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む前と棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後の、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力の実態を図1に示す。

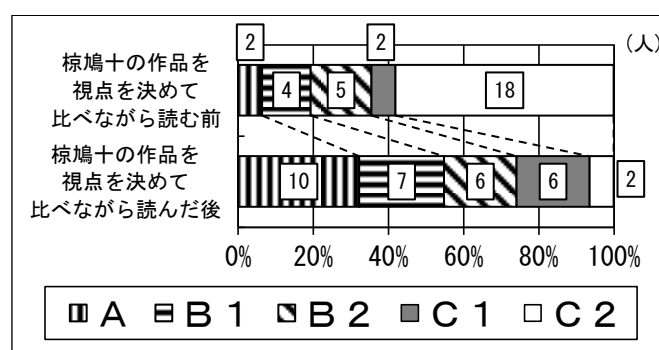


図1 文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力の実態

棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文の内容について、A, B1, B2と判断する児童は、11人(35.4%)から23人(74.1%)に増加した。

また、C2と判断する児童は、18人(58.0%)から2人(6.4%)に減少した。C1と判断する児童は、棕鳩十の作品を比べながら読む前に書いた推薦文を分析すると、文章の内容面や表現面の特徴をとらえ

ていないし、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめていなかった。しかし、椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文では、「親子の愛情を教えてください。」「家族の大切さが分かります。」という内容面の特徴をとらえていた。このことから、C 1 と判断する児童は、文章の内容面の特徴について思ったり考えたりしたことを十分にまとめられなかったが、内容面の特徴についてはとらえられるようになったと考える。

次に、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力について、友達に推薦したい作品の推薦文を基に、詳細に分析・考察する。

まず、読んだ文章の内容面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることについて、児童の実態を分析・考察する。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む前に書いた推薦文において、多くの児童は、自分の好きな場面や感動した場面など一部の場面を取り出し、その場面やその場面に登場する人物について思ったり考えたりしたことをまとめていた。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた友達に推薦したい作品の推薦文において、内容面に関する記述で、多く見られたものを次に示す。

【「金色の川」の推薦文】

この物語は、子どもを命がけで守ろうとする姿は人間も動物も同じで、人の気持ちを教えてください本です。また、親子について考えることができます。

【「片耳の大シカ」の推薦文】

この物語は、人間も動物も関係なく助けよう、協力しようということを教えてください。命がけで必死に助けようとする姿に、必ず心が動かされます。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文で多く見られた内容面に関する記述

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後は、下線部のように文章全体の内容の特徴をとらえ、それについて二重下線部のように思ったり考えたりしたことをまとめていた。このような推薦文を書き、A, B 1 と判断する児童は、6 人 (19.3%) から17人 (54.8%) に増加した。

次に、読んだ文章の表現面の特徴について思った

り考えたりしたことをまとめることについて、児童の実態を分析・考察する。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む前に書いた推薦文において、表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめていた児童は7人いた。しかし、そのうち、本研究で求めている、物語に登場している鳥や動物に対する中心人物の気持ちが情景に表れていることに着目している児童は、2人であった。また、16人の児童は、表現面に関する記述が全くなかった。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた友達に推薦したい作品の推薦文において、表現面に関する記述で、多く見られたものを次に示す。

【「金色の川」の推薦文】

二人の人間が母カワウソのことを勇敢な奴だ
と思う気持ちは、「雪におおわれた崖も谷間も、朝の光をはねかえして、お話の中の金の谷のように、目もくらむほど、きらきらかがやきわたるのでした。」という情景に表現されています。あの母カワウソが勇敢で光かがやいていたという姿を思わせる上手な表現です。

【「片耳の大シカ」の推薦文】

片耳の大シカの様子に感動して、片耳の大シカをうつのをやめようと思うようになったかりゅうどの気持ちは、会話だけでなく、「太陽にかがやいていました。」や「その新しい光をせなかいっぱいにあびて」などの情景にも表れています。この情景に、すばらしいシカだという思いがこめられていると思います。とてもよい表現です。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文で多く見られた表現面に関する記述

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後は、下線部のように、物語に登場している鳥や動物に対する中心人物の気持ちが表れている情景を表現の特徴としてとらえ、それについて二重下線部のように思ったり考えたりしたことをまとめていた。このような推薦文を書き、A, B 2 と判断する児童は、7 人 (22.5%) から16人 (51.6%) に増加した。

以上のことから、読んだ文章の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている児童、すなわち、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめることができた児童は増加したと考え

る。

(2) 事前アンケート・事後アンケートから

事前アンケート・事後アンケートの項目「物語の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。」についての児童の意識を、図2に示す。

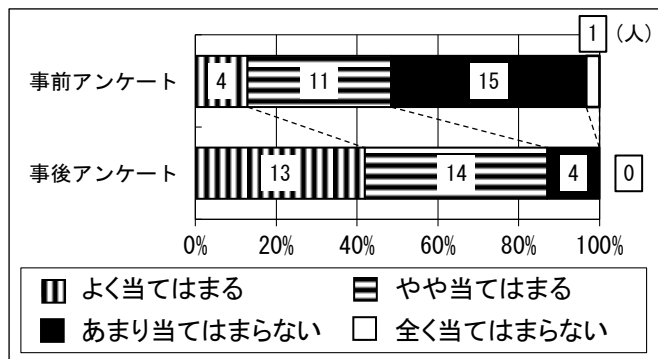


図2 項目「物語の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめている。」についての児童の意識

肯定的な回答をした児童は15人(48.3%)から27人(87.0%)に増加した。

このことから、物語の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりしたことをまとめることによって、児童の意識が高まったと考える。

以上、(1)(2)から、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることができたと考ええる。

2 同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であったか

(1) 事後アンケートから

事後アンケートの項目「物語の内容面や表現面の特徴について自分の考えをまとめるために、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は役立った。」についての児童の意識を、図3に示す。

事後アンケートで肯定的な回答をした児童は、28人(90.3%)であった。

これらの児童の多くは、「同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読んだら、すいせん文が書きやすくなった。」という主旨の感想を書いていた。「すいせん文が書きやすくなった。」と思うようになったのは、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読んだことで、個々の児童が、自分なりに作品の内容面や表現面の特徴について思ったり考えたりする

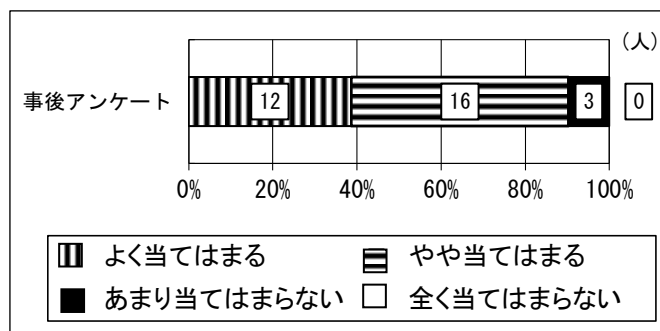


図3 項目「物語の内容面や表現面の特徴について自分の考えをまとめるために、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は役立った。」についての児童の意識

ことができるようになったためと考える。

事後アンケートにおける意識調査の結果と感想から、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめることに役に立ったことが分かる。

(2) 個に焦点を当てて

棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読むことにより、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめることができるようになった児童の中から、棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む活動が自分の考えをまとめることに顕著に生かされている児童aの推薦文を次に示す。

【棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む前に書いた「大造じいさんとガン」の推薦文】

私が心に残ったのは、「りょうじゅうをぐつとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほどひきしまるのでした。」というところです。ぜったい今年こそしとめてやるという気持ちが分かりました。ぜひ読んでみてください。

【棕鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた「金色の足あと」推薦文】

私は、「金色の足あと」をすいせんします。

これは、正太郎が子ギツネを一生けん命助けようとする親ギツネを見て、親ギツネのことをそんけいするようになる物語です。

正太郎が親ギツネのことをそんけいする気持ちを⑥「まばゆい朝日に、キツネどもの足あととは、金色にかがやいて、ふかい林のおくに、つづいていくのでありました。」と表現しています。⑦「そんけいする人に送る金メダルなどをイメージして「金色にかがやいて」と表現したと思います。このようなすばらしい表現が、ほかにもありま

す。

この物語は、⑤人間も動物も関係なく家族を命がけで守ろうとする姿は、人の気持ちを変えられることを教えてくれます。⑥心に残る物語です。そして、私は、家族を大切にしようと思いました。ぜひ、読んでみてください。

児童 a の推薦文

児童 a の推薦文と授業の振り返りで書いた記述を基に、児童 a にとって、椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む活動が有効であったか分析・考察する。

椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読む前に書いた推薦文において、児童 a は、自分の心に残った場面を取り出し、それについて思ったり考えたりしたことをまとめていた。椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文においては、「金色の足あと」の内容面や表現面の特徴（下線部⑥、⑤）について、二重下線部①、②のように思ったり考えたりしたことをまとめることができた。

児童 a が、椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ授業の振り返りで書いた記述には、「椋鳩十さんの作品は、かりゅうどなど中心人物の気持ちが変わる物語が多くありました。最後の情景に中心人物の気持ちが表れていて、『金色』『かがやく』など、明るい言葉が使われている物語が多いと思いました。」とあった。この記述から、児童 a は、椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読むことにより、「金色の足あと」には、正太郎のキツネに対する見方が変わっているという特徴や、それが物語の終末に書かれている情景に表されているという特徴があることをとらえ、それらについて思ったり考えたりしたことをまとめることができたと考えた。

以上、(1)(2)から、同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動は、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であったと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

同じ作者の作品を視点を決めて比べながら読む活動を取り入れることは、文学的な文章を読んで自分の考えをまとめる力を高めることに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

- 椋鳩十の作品を視点を決めて比べながら読んだ後に書いた推薦文の内容について C と判断した児童は、8 人であった。そこで、今後は、視点を決めて比べながら読む活動を取り入れた授業を行うとともに、読んだ文章の特徴についての気づきを価値付けたり、それらについて思ったり考えたりしたことを児童から引き出したりする授業を計画的に行っていききたい。
- 本研究は、「C 読むこと」の指導事項オに示された力を高めるための学習指導の工夫について研究したものである。この事項は、文学的な文章の学習と説明的な文章の学習に共通する事項であるが、本研究では、研修期間の制約から文学的な文章の学習のみを扱った。そのため、説明的な文章の学習においてこの力を高める学習指導の工夫まで明らかにすることはできていない。今後は、説明的な文章を読む際の視点について整理するなどして、この指導事項に関する研究を一層深めたい。

【注】

- (1) 文部科学省（平成22年）：『平成22年度全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』 p. 127 に詳しい。
- (2) 国立教育政策研究所（平成22年）：『平成22年度全国学力・学習状況調査解説資料小学校国語』 p. 41 に詳しい。
- (3) 文部科学省（平成23年）：『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】』教育出版 p. 60 に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成20年）：『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p. 90
- 2) 井上一郎（2008）：『国語科における新しい教育課程の創造』『初等教育資料』（9月号）東洋館出版社 p. 64
- 3) 国立教育政策研究所（平成23年）：『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校国語）』pp. 74-75
- 4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成22年）：『平成22年度全国学力・学習状況調査解説資料小学校国語』 p. 15
- 5) 国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成22年）：前掲書 p. 41
- 6) 水戸部修治（2010）：『教材開発のアプローチ・その2『比べる』』『教育科学国語教育』（7月号724号）明治図書 p. 125
- 7) 水戸部修治（2010）：前掲書 p. 123